

コース 13 ドンデン山～^{こんごうせん}金剛山

リーダー CL E/S SL N/S
 実施日 平成21年 5月23日(土)、24日(日) 天候 曇り
 参加者 15(男性 8 女性 7)
 グレード B上～C

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
(23日)新潟港	6:00	7:00	新津よりタクシー
金北山 分岐	9:05	9:15	両津よりマイクロバス
尻芝山	10:15		
滑石	11:30	12:10	風の当たらないところで昼食
雪畑山	12:40	12:55	1,002.9m コース最高点
金剛山	13:45	13:50	ツアーの人多く、直ぐ下山
白瀬	16:00	16:30	マイクロバスまで20分歩く
民宿 滝本	17:30		
(24日)民宿発		8:30	
大野亀	10:05	10:55	大野亀の頂上まで登る
はじき野	11:10	12:50	昼食
両津港	13:45	16:00	お土産、買い物
新潟港	18:30	18:55	タクシーで新津着 19:30

山行等概要(幹事のコメント)

- ・ 花の時期が今年は早かったので、アオネバ登山口からアオネバ十字路まで花があまりないため、歩かないで金北山分岐までマイクロバスで行き、帰りに下山口までマイクロバスが入れないので少し時間を稼ぐ。
- ・ 雨は降らなかったが、ガスって眺望がなく残念。
- ・ 下見に行った頃(5月4日)花は一杯咲いていたが残雪があり道に迷う。このコース(ドンデン～金剛山)は藪や残雪があり行く時期が難しい。
- ・ 花は良い所は終わっていたが、それでも、シラネアオイ、座禅草、イワカガミ、カタクリに会うことができ救われた。
- ・ 外海府の海岸ではイワユリが咲いていて、大野亀ではカンゾウの花が少し咲いていて佐渡まで来た甲斐があった。



雪畑山山頂

「ドンデン山、金剛山に参加して」

(648) C/H



前から行きたいと思っていた佐渡の山へ、今回参加することができ本当に良かったと思いました。

山は人の手があまり入らなく、杉も植林したものと違い自然のままの曲がりくねり、何本もの木が重なり絡み合い、このまま成長したら、どのような森を形成することかと思いました。

花で驚いたことは、種類の多さと、そして、何んと言っても座禅草の多さに、今までのイメージが一掃させる眺めであった。

このままの自然が藪山で良いので、手をあまり入れず、残してほしいと願わずにはられませんでした。

また、行きたいと思います。幹事さんに感謝と、お願いを。



巨木杉を脇に金剛山に向かう

「佐渡ドンデン山；金剛山 山行感想」

(1475) A/W

5時30分集合 15人でタクシーを分乗し、7時ジェットホイールに乗り8時両津に着いた。民宿のマイクロバス（その後もお世話になる。）でアオネバ登山口に向かうが、シラネアオイがもう、おしまいということで、リーダーの判断で、アオネバ十字路まで登った。付近の美しいシラネアオイ、サンカヨウを観て、ドンデン高原へ向かうが、霧と風でただ、足元を見て、岩がゴロゴロとなって、ひたすらついていくのみであった。



風を避けへばりついている黄色の花はキジムシロという。ヤマツツジの鮮やかな赤い花が彩っていた。岩陰で昼食を取った。佐渡最高峰の雪畑山を往復するころから「花の佐渡」を実感し始めた。

ハンショウヅルが半鐘のようなかわいい花をつけていた。金剛山に行く途中、風雪に耐え、捻じ曲がり、傾きながらも上に伸び



ていく、何本にも分かれた巨大な杉、圧巻にただただ、驚くのみだった。その後、茂みの中で、ザゼンソウが畑のように群生していた。まさに、1人で洞にこもっている様、これだけ群生していれば1人きりでないかも。サンカヨウも群生しており、ツバメオモトが燕の口のような点々を配して筒状の花、カタクリも多いが、葉に斑が入っていないのも珍しい。花を捜して歩くうち、金剛山の頂上からの下りは長かったが、面白く、無事下山した。林道を歩くと、そこには日本のオドリコソウが白く群れていた。白瀬でマイクロバスに乗り民宿たきもとに、食事は新鮮な刺身がどっさりついて大満足した。

翌日。大野亀に行き、トビシマカンゾウは3分咲き、イワユリも所々に、あった。頂上にイブキジャコウソウが鮮やかなピンクに咲いていた。船の中で、見た花を数えたら、40種以上も確認できた。



今年初めて、会に参加し山行紀行文を寄せたが、肝心な時間と場所をメモする余裕がなかったものだから、感想文であることをお詫びします。



2009. 5. 24. 弾崎灯台

カンゾウ

蛇足ですが、佐渡は世界遺産を目指しているといいますが、風雪に耐えての手づかすの自然、巨木の杉を含めて、文化自然遺産にしては、などと考えました。